



梅の香だより

令和8年2月2日
ねづやま夢の学び舎
世田谷区立梅丘中学校
校長 石綿 健一郎
令和7年度 第10号

あいさつ

「おはようございます」。今日も、梅丘中学校には気持ちのよいあいさつがあふれています。日中、廊下ですれ違うときも、会釈とともに「こんにちは」とあいさつの声をかけてくれます。登校途中や下校途中など、校外で出会ったときにも「おはようございます」、「さようなら」とあいさつを交わすことができます。あいさつが習慣になっている梅中生はほんとうに素晴らしいと思います。

あいさつの言葉があるのはもちろん日本だけのことではありません。「グッドモーニング（英語：good morning）」、「ニーハオ（中国語：你好）」、「ボンジュール（フランス語：bonjour）」、「アンニヨンハセヨ（韓国語：안녕하세요）」、「マンガンダンウマガ（タガログ語：magandang umaga）」、「グーテンモルゲン（ドイツ語：guten morgen）」、「サワッディー（タイ語：ສະວັດດີ）」、「ナマステ（ヒンディー語：नमस्ते）」などなど。いずれも「おはよう」や「こんにちは」を表す言葉です。どの国でもあいさつが大切にされていることが分かります。

また、「ありがとう」という言葉もどの国でもよく使われます。「サンキュー（英語：thank you）」、「シエシエ（中国語：谢谢）」、「メルスイ（フランス語：merci）」、「カムサハムニダ（韓国語：감사합니다）」、「サラーマット（タガログ語：salamat）」、「ダンケ（ドイツ：danke）」、「コープクン（タイ語：ຂອບຄຸນ）」、「ダニヤワード（ヒンディー語：ধ্যবাদ）」などなど。海外に出かけるときにまず覚えておきたい言葉は、あいさつの言葉と感謝の言葉ともいわれます。場所や言語は異なっても、人との関わりを大切にするというのはどこでも共通のことであると思います。

中学生の皆さん将来の社会生活は、より国際化が進んでいくと言われています。あいさつができること、感謝の気持ちを伝えられること、生活の中での基本的な行動が、国際社会での生活にもつながっていくのではないでしょうか。これからもあいさつと感謝の言葉があふれる梅丘中学校にしていきましょう。

コラム～梅丘の由来は～

前号のコラムで紹介した牛年にちなんだ地名の由来に好評をいただきましたので、今回は校名でもある「梅丘」の由来を・・・。

「せたがや梅まつり」で有名な羽根木公園の梅林が由来かなぁ・・・となんなく思っていたのですが、羽根木公園の梅林は昭和42年に区議会議員選出記念として55本の梅を植樹したのが始まりだそうです。本校の開校は昭和22年ですから、校名の方が先ですね。

調べてみると梅丘は梅ヶ丘駅が由来なのだそうです。昭和9年、当時、北沢窪と呼ばれていたところに小田急線の駅ができることになり、その駅名を「梅ヶ丘」としたことによって、その後、「梅丘」という地名が生まれたそうです。ではなぜ駅名を「梅ヶ丘」にしたのか。これには諸説あり、近隣の地主の家に梅の古木があったこと、その地主の家紋が梅鉢であったこと、かつて古墳があり埋ヶ丘（うめがおか）といわれていたこと・・・などなど。町名が「梅丘」となったのは、昭和41年の住居表示改正からということですから、校名の梅丘は駅名が由来と考えてよいのではないかと思います。

そんな梅丘中学校ですが、現在の所在地は世田谷区松原です。